



おまち

Vol.
147

2025. 3. 1 (隔月1回1日発行) 編集発行：群馬県県土整備部都市計画課企画推進係



令和6年度「官民連携まちづくりシンポジウム」の様子



官民連携から花咲く、新しい未来

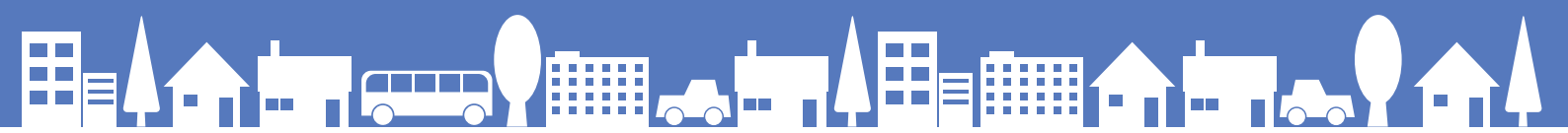
- プロジェクトチームの活動の集大成 ～官民連携まちづくりシンポジウム～
- 大間々官民共創デザイン合同委員会
「使う、伝わる、行動する～まちの好循環をつくる都市再生実践論～」

【トピックス】かわまちづくり×Park-PFI×河川のオープン化 わたらせリバープラザ(足利市)

【トピックス】ほこみちインスパイアフォーラム2024に今年も参加してきました！

- 【マーチィ'sROOM】
- マーチィに訊け まちづくりライブラリーからおすすめの一冊
 - マーチィVOICE まちづくりプレイヤー紹介
 - マーチィの掲示板 国土交通大学校に行ってきました！
 - まち'sスクリの独り言

【まちづくりイベント情報】 ●県内で行われるイベントの紹介



プロジェクトチームの活動の集大成 ～官民連携まちづくりシンポジウム～

群馬県庁官民連携まちづくりプロジェクトチーム
(群馬県県土整備部都市計画課)

■ はじめに

群馬県では、「官民連携まちづくり」を推進しており、令和3年度から、情報発信の1つとして、官民連携まちづくりシンポジウムを開催しています。今回のシンポジウムは、群馬県において官民連携まちづくりを推進してきた「官民連携まちづくりプロジェクトチーム」が今年度いっぱい活動に区切りを迎えることもあり、これまでの活動を踏まえて、官民連携まちづくりのノウハウ・知見を共有・継承することを目的として実施しました。

今年度は、国土交通省でウォーカブル政策の立ち上げ・推進を行い、また、プライベートでも自ら公共空間の活用に取り組んでいる国土交通省都市局都市環境課今課長補佐を講師としてお招きしました。



R6シンポジウム フライヤー

■ R6官民連携まちづくりシンポジウムの目的について

官民連携まちづくりを実践していくためには、公共空間の施設管理者の理解が不可欠です。そのため、今回のシンポジウムでは施設管理者の理解を深めることに重点を置きつつ、公共空間の利用者と管理者の双方が官民連携まちづくりに対する理解を深め、公共空間を活用したまちづくりの推進につなげることを目的としたプログラムを設定しました。



今課長補佐

まちづくりの話をわかりやすく熱く語っていただきました！

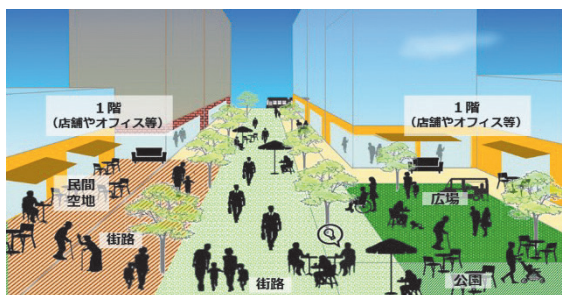
■ 基調講演 『やってみよう』からはじめる公共空間活用実践

「道路(街路)は、都市空間の構成の中でも30%を占めている。日本全体で見ると40%前後が道。道路のあり方が、都市のあり方を規定することになる。」とウォーカブル政策の有識者としての鋭い意見から基調講演が始まりました。日本は、自動車中心の社会構造になっているが、世界のウォークシフトの流れから数十年遅れでその流れに追随しているとのことでした。また、日本の中でも、大都市から中小都市まで、ウォーカブルの取組が始まっているが、大阪の御堂筋や愛媛松山の花園町通りに代表されるように西日本の方がその流れが強くなっているそうです。

ただ、ウォーカブルとは「歩ける・歩きやすい」ではなく、根源的には私たちの人間らしい暮らしを実現するための考え方であり、「歩きたくなる」ことが重要です。街路は、誰もがアクセスできる最も基礎的な公共空間であり、「都市の本質は交流」と国交省都市局の中でも感じられているそうです。

そのため、ただ、公共空間を作っただけの時代からは転換し、「使う」ことが重要になります。行政は「使う」のが苦手なため、市民・民間事業者には「使う」の主役になってもらわなければならないと指摘。ご自身が住まれている小山市でも、公共空間の使い手が増えてきたことによりまちが面白くなってきたと感じているとのことでした。

「楽しい町を作るために、まずは、自分がまちを楽しんでみる、生活者視点でまちを考えることが大事」と管理者視点ではなく、生活者視点で見ることの重要性を我々に気づかせてくれました。

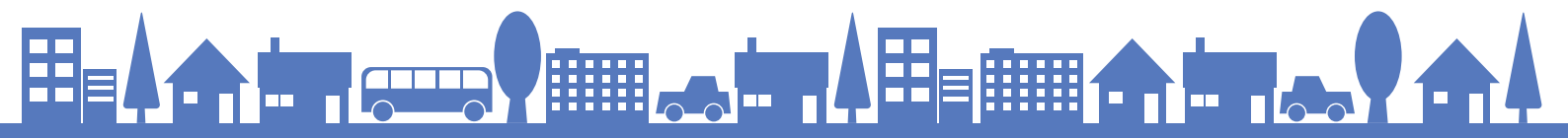


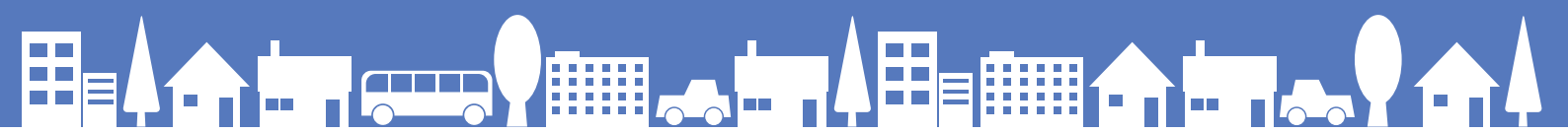
居心地が良く歩きたくなるまちなかのイメージ

居心地が良く歩きたくなるまちなか (イメージ)

Walkable	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけなくなる、歩きたくなる。
Eye level	まちに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラオがあり、ガラス張りで見えやすく、人は歩いて楽しくなる。
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
Open	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

出典：国土交通省都市局まちづくり推進課作成
「居心地良くあるきたくなる」まちなかづくり支援制度
(法律・税制・予算等)の概要 ※一部資料を加工





■ 取組紹介

取組紹介では、プロジェクトチームからこれまでの活動の紹介と財産有効活用課県庁舎リノベーション推進室から県庁舎トライアル・サウンディングの事例の紹介がありました。

プロジェクトチームからは、今の時代にあったまちづくりが必要で、単なるにぎわいの創出ではなく、エリア価値の高い、持続可能なまちづくりをしていく必要があるとの目的意識から、民間事業者が公共空間を活用できる状態にしていく必要があるとの話がありました。そのために、「事業・制度の壁」、「意識の壁」を取り払うためにこれまで活動をしてきたとの報告がありました。

チームとして、色々な活動をしてきましたが、桐生本町6丁目で実施した「歩道nite」の事例紹介から、単発のイベント実施ではなく、日常の風景へつなげることを目的とし、沿線の空き物件オーナーの意識変化や団体の都市再生推進法人化などの成果につなげられたとの事例紹介が印象的でした。

県庁舎リノベーション推進室からは、知事の考えである「県庁舎も県民の重要な資産である」との考えから、県庁舎各所の有効活用の可能性について調査・検証するためにトライアル・サウンディングを実施したとの話がありました。トライアル・サウンディングでは、運用面で様々な苦労があったが、なるべく利用者に寄り添って対応したというお話しはこれからの官民連携まちづくりに必要な心構えだと思いました。



チームリーダー 高橋主幹



県庁舎リノベーション推進室
高橋係長

■ トークセッション



県庁舎リノベーション推進室
千葉室長



都市計画課 小島課長

トークセッションでは、今課長補佐、高橋チームリーダーに加え、都市計画課小島課長、県庁舎リノベーション推進室千葉室長の計4名で、群馬県の公共空間を考えました。

今課長補佐からは、水辺空間と公園は様々な制度が生まれ、官民連携まちづくりが進んできたが、道路空間は今一步。ただ、社会実験はめっちゃくちゃ増えているとの紹介がありました。更に、群馬県の取組は素晴らしいというお褒めの言葉もありましたが、高橋チームリーダーからは、少し前まで県庁舎は絶対に使わせないという姿勢だったのが、大きくマインドが変わり今の状況になったという実情が伝えられました。その上で、県庁舎のようにまちづくりをやりたいプレイヤーは多くいるので、相談できる体制作りが大事という指摘がありました。

また、会場にいる桐生土木事務所の管理担当者からも、判断に苦慮したが、地域の活性化に資するという視点から対応したという現場での対応事例の紹介がありました。

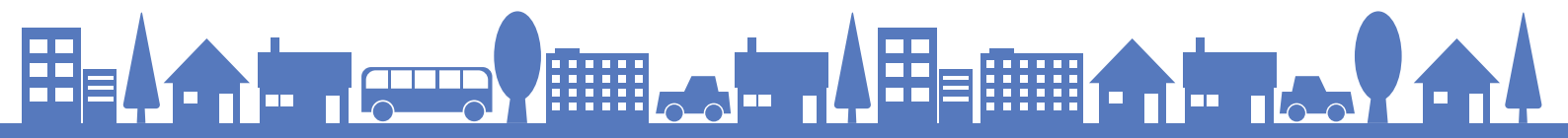
千葉室長からも、県庁舎の貸し出しの判断については毎回苦労しているが、できるだけ前向きに利活用に協力していきたいという言葉がありました。小島課長からもまちづくりに対する熱い思いをお話し頂き、シンポジウムの参加者のマインドを大きく変えるトークセッションとなりました。

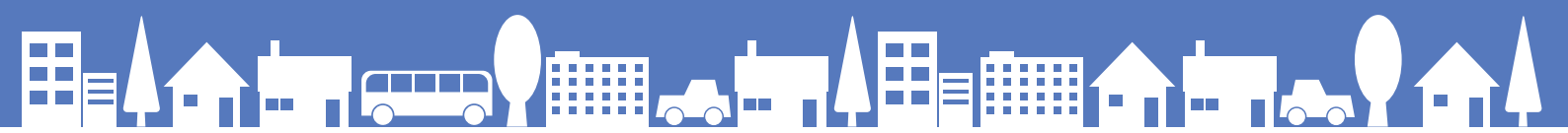
■ おわりに

プロジェクトチームでは、これまで、群馬県という公共空間の所有者・管理者としての活用の推進とまちづくりプレイヤー・市町村のサポートの2つを軸に活動してきました。その中で、自らも実践者として道路空間を活用した社会実験に取り組んだり、手引きを作成して官民連携まちづくりの普及・啓発に努めるなど群馬県における官民連携まちづくりをリードしてきた存在でした。そんなチームの活動の集大成にふさわしいシンポジウムとなったと思います。シンポジウムの開催にあたり、基調講演を快く引き受けてくれた今様、財産有効活用課の千葉室長、高橋係長、ヒアリングに協力いただいた土木事務所の皆様、そのほかシンポジウムの開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様誠にありがとうございました。



トークセッションは
予定時間を超える盛り上がりでした！





大間々官民共創デザイン合同委員会

「使う、伝わる、行動する～まちの好循環をつくる都市再生実践論～」

みどり市 都市建設部 都市計画課

■ はじめに

みどり市では大間々中心市街地において、民間と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいくための指針となる「大間々官民共創デザイン(※以下「デザイン」という)」を策定しています。合同委員会では、これまで検討してきたデザインの内容を市民の方々に説明することに加えて、デザイン策定後のアクションを明確にするために、全国のまちづくりの第一線で活躍されている西村浩氏を講師としてお招きし講演会を開催しました。



会場のながめ余興場外観と
フライヤー(右)



■ 講演会

講師の西村浩氏は建築・リノベーション・土木分野のデザインに加えて、全国各地の都市再生戦略の立案にも取り組まれています。

講演会では人口減少時代の中でまちを持続させるための方法についてお話しいただきました。佐賀県呉服元町通り(200m)の風景を十数年かけて変えてきた事例や、長野県佐久市中込地区の歩行者専用道路(公共空間)において民間主導の社会実験から公共投資に結びつけた事例を基に、小さなエリアで小さいアクションを積み重ねることは周辺にも影響を与え、エリア価値を向上させることを示していただきました。

また、全国を中心市街地・商店街衰退については、戦後の高度経済成長期の画一的な都市計画ではなく、まちの中心部におけるミクストユースな職住近接や、まちなかに存在する空き地や空き家・空き店舗などの余白を楽しみながらまちの魅力を高め、小さい投資、小さい行動が集まるような人気で選ばれるまちになることが大切だと教えていただきました。

まちづくりは一朝一夕で実現するものではありません。そのため将来を担う子どもたちの参加や、お母さんたちがまちで暮らせることがまちづくりを継続させるポイントであり、世代を超えてまちづくりに参画できる仕組みづくりや議論の場を設けることが必要であると分かりました。



デザイン説明 建部氏



講演 西村 浩氏



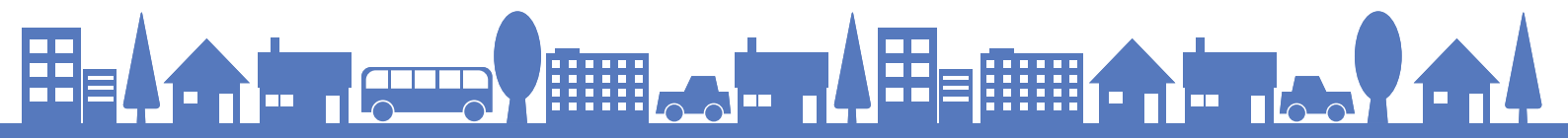
トークセッションの様子

■ おわりに

今回の講演会で、官民関わらず一人ひとりがまちの当事者となり、小さくてもできることから行動していくことが必要であると強く感じました。デザインの策定を機に、これまで以上に官民がそれぞれの適切な役割の下、まちの未来を共有し、手を取り合ってまちづくりに取り組んでいきたいと思います。



まちあるきの様子





かわまちづくり×Park-PFI×河川のオープン化 わたらせリバープラザ(足利市)

群馬県 県土整備部 都市計画課

取材協力 栃木県足利市 都市建設部 市街地整備課

■ はじめに

公共空間を活用したまちづくりは色々な事例が生まれていますが、その中でも、河川空間の利活用はあまり進んでいないのではないのでしょうか。群馬県では、代表的なものとして「みなかみ町かわまちづくり計画」が平成31年3月に登録されて以降、新たな「かわまちづくり」計画の登録は進んでいない状況があります。

そのような中、群馬県にもゆかりのある渡良瀬川を使った「かわまちづくり」を栃木県足利市が進めているとの情報を入手しました。

「五十部・岩井地区かわまちづくり」計画により整備され、12月1日にオープンしたばかりの「わたらせリバープラザ」について、まっちゃん〜ずで取材してきました！

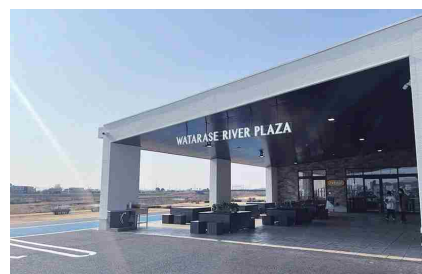


写真1 わたらせリバープラザ正面入り口は、テラスシート兼サイクリストの休憩所です。

■ 「足利市のかわまちづくり(「五十部・岩井地区」)について

足利市は、一級河川渡良瀬川を対象に、「かわまちづくり」計画を策定しています。この計画では、渡良瀬川の河川空間を活用したサイクルツーリズムや「都市・地域再生等利用区域」指定を活用した「まちなかにおける憩いの場の創出」などに取り組むこととしています。

この区域に指定されることにより、民間事業者も含めて、飲食店・売店・オープンカフェなどの営利施設について占用許可を受けることができるようになります。(河川空間のオープン化)

足利市は、このオープン化した区域で、公募設置管理制度(Park-PFI)による民間事業者のノウハウを活用した「わたらせリバープラザ」を誘致しました。

■ わたらせリバープラザについて

「わたらせリバープラザ」は、足利市が「市民・観光客の活動・飲食拠点」や「サイクリングの滞在拠点」であることを目指して公募し、法人グループ「コネクトわたらせ」が整備した「多機能型まちの駅」です。

施設内には、足利市のご当地バーガーを販売する「ASHIKAGA RIVASABURGER」や足利市の商品を中心としたご当地自販機、子供たちが職業体験できる「ヒラメKids」、eスポーツが体験できる「LOTTA」など、民間事業者が創意工夫を凝らした魅力的な施設が整備されています。



写真2 ハンバーガー屋さん。残念ながら定休日でした…

実際には、美味しいハンバーガーが食べられます！(是非食べたい!!)



写真3 自販機にはマグロの刺身も!?

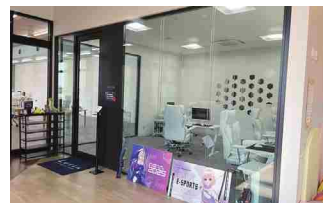


写真4 eスポーツ設備も充実してました!

■ 工夫したところ

足利市さんに話を聞いたところ、「かわまちづくり」はこれまでも進めてきており、国土交通省渡良瀬川河川事務所とも良好な関係を築けていたことから、河川事務所との協議には苦労はほとんどなかったとのことですが、Park-PFIについては、全くのゼロベースでとても苦労したとのこと。 (河川事務所との協議が一番難航しそうですが、そこを軽く突破しているのは足利市のすごいところですね!)

そのため、公募要領の作成に当たっては、群馬県のPark-PFI事例を参考にしたとのこと。ただ、様々な事例を研究し、議会等への説明も丁寧に進め、現在の公募要領を作り上げたとのことでした。

また、公募前にはマーケットサウンディングを行い、何と6社が参加してくれたとのこと。そのため、市場性があるかを十分に検討の上、公募に着手できたとのこと。

コロナ禍ということで相当厳しいスタートだったとのことですが、その苦労の分、現在はとても素晴らしい施設ができていると思います。

渡良瀬川流域の方だけでなく、Park-PFIの事例としても参考になるかと思うので、是非とも一度は遊びに行ってください!

最後に、取材に協力していただきました足利市役所の皆様、コネクトわたらせの担当者様、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。



ほこみちインスパイアフォーラム 2024に今年も参加してきました！

群馬県 県土整備部 都市計画課

■ はじめに

2025年1月21日(火)に、東京都大手町の大手町サンケイプラザホールで開催された国土交通省道路局主催の『ほこみちインスパイアフォーラム2024』にまっちい～ずから3名が参加してきました！今回が4回目のほこみちインスパイアフォーラムということで、思い返すとまっちい～ずは3回目の参加で皆勤賞とはなりませんでした。参加する毎にスケールアップしており、今回の2024も含め毎回インスパイア(強い影響)されちゃうフォーラムです。WEB参加もできますが、やっぱり現場だと参加者の熱気を感じることができるのでその影響もあり、まっちい～ずもとても楽しい取材となりました。

今回のテーマは『ほこみち領域∞ムゲンダイ！』と題して、メインスピーカーとトークパートナーとのみち活クロストークセッションでの道路空間活用の深掘りや、活用に挑むプレーヤーの方々の様々な『ほこみち』の取組みを紹介するトレンド&トピックなど盛りだくさんで進行し、盛り上がりすぎて終了時間が1時間近く押してしまったうえ、それでもまだ話し足りないという状況に年1回のイベントではもったいないと思いました。

■ みち活クロストーク

オープニングから『皆さんは好きなストリートはありますか』と道路局の留守調整官より投げかけがあり、調整官からはまさかの裏原宿キャットストリート！が大好きとのご発言。(あとで、池袋グリーン大通りと言うべきだったと反省の弁を述べられておりましたがストリート系ファッションの聖地とストリートを掛けた個人的にはなるほどと思えるナイス回答でした)

出だしからシナリオ通りには行かない予感がしたところで、まちづくりネイバーフッドでは、知らぬ者はいないメインスピーカーの方々とトークパートナーとのみち活クロストークに入りましたが『ほこみち』という制度の枠組みにとらわれない、歩行者空間、道路空間の未来が次々と展開しました。(まさしくインスパイアザネクスト的なお話です)

DX技術がもたらす歩行者空間の大変革は、自動運転等により安心して多様な使われ方が実現し、信号機などもいらなくなる。ヘルシーでグリーンで(アウトドア)リビングで公園のようなサードプレイスになる、みちを居場所にすることができるなど、人と人をつなぐ新たな空間・新たな価値を創造する場所になるとみちの可能性について様々な視点からトークが行われました。その中でも、まっちい～ずで注目したのがデザイン力です。対話のデザイン力では、人を巻き込みフラットな関係になるまでは、あきらめずに編集しながらやりつづける、対話相手が喜ぶことを含めて提案するなど、全て1回で解決しようとはせず、少しずつみちの景色が変る過程を見せ続けることが重要だと思いました。また、実験のデザイン力では、みちにある仮設物と言えど、その質が人々の行動をも変える力があるということです。実験という範囲を超えた高質な空間デザインをしつらえると人々は引き寄せられる。そして、実験はただのお試しではなく戦術的なアクションとしてスピーディーにグリラ的に展開することで、いずれは点から面(エリア)に波及する、波及を検証し実装することで最終的にはビジョンとしてまちの戦略にまで昇華できる、デザインの持つ力というのが非常に重要であることがわかりました。

■ おわりに

ほこみちインスパイアフォーラム2024は国土交通省道路局主催の取組になりますが、メインスピーカーやトークパートナーを見ても都市局関係の顔ぶれも多いです。国土交通省も局という現体制のままで『ほこみち』や『ウォカブル』というキーワードを基に道路局と都市局で連携するとかかりを探している最中であると思いました。局、管理者、プレーヤーなどの垣根を越えて道路空間が変革した景色を見るためには、人中心、人々の行動変容が不可欠であると感じます。行動変容の途中では時に不便を被ることもあるとは思いますが対話のデザイン力を駆使してあきらめずにやり続けていくことでみちの領域は∞ムゲンダイ！



国土交通省道路局 留守調整官
気仙沼市ほこみち事例



DXと未来の歩行者空間



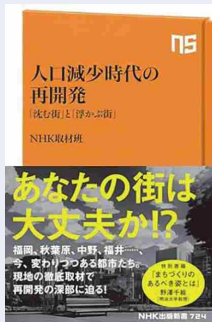
群馬県官民連携まちづくりシンポジウム
講師の今さん



マーチィ's ROOM

マーチィに訊け！

まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます！
人口減少時代の再開発「沈む街」と「浮かぶ街」 著 NHK取材班



今号の
おすすめ
ライブラリーは
こちら！



皆さんは「再開発」と聞いて、どのような光景をイメージされますか？
日本の人口は2008年をピークに減少に転じ、高度経済成長期に建てられたビル等は更新時期を迎えています。さらに近年は、世界的な建築資材高騰や建設現場の人手不足の影響による計画変更やそれにとまなう工事の遅れなど、事業の採算性の判断が難しい状況にもあります。
本書では東京を中心に全国各地で行われる再開発事業の状況取材し、見えてきた実態や課題、これからの再開発事業の考え方の示唆がまとめられています。ユニークなまちづくりとして、世田谷区下北沢、岩手県紫波町、神戸市が取り上げられています。それぞれの地域から見えてきたキーワードは「個性」と「持続可能性」ではないだろうか。
時代の転換期を迎えている今、再開発に限らずこれからのまちづくりに役立つ考え方を知れるおすすめの書籍になりますので、ぜひ読んでみてください。

マーチィ VOICE

●まちづくりプレイヤー紹介●

群馬県官民連携まちづくりプロジェクトチーム



シンポジウム後の記念写真

プロジェクトチームは、県庁内の有志があつまったボトムアップ型の庁内内部局横断型チームです。
これまで公共空間で民間の経営力を活用した官民連携まちづくりの普及・啓発・研究に取り組んできました。
令和元年度から、正式にチームとして活動し、自らも実践者として公共空間活用に取り組みながら、有識者として手続きガイドの作成、官民連携まちづくりの伴走支援を行ってきました。
今回のシンポジウムで、これまで培った知識・ノウハウが県庁内・県内市町村まちづくりに少しでも役に立てば幸いです。
チームの意思が引き継がれて、これからも群馬県の官民連携まちづくりが進んでいくことを期待しています！

マーチィの掲示板

国土交通大学校に行ってきました！

群馬県 都市計画課 企画推進係 高野 修平

2024年11月11日～22日の12日間、東京都小平市にある国土交通大学校で研修を受けてきました。受講した研修テーマは「都市行政[持続可能な都市経営に向けた官民連携まちづくり]」です。人口減少や高齢化が進む現代において、都市経営課題は多様化・複雑化しており、その課題に対して、どのような考えやアプローチをしていけば持続可能なまちづくりを進めていけるのかを学べる内容でした。
本研修は座学とゼミナール(課題演習)に加え、官民連携のまちづくりが実践されている現地見学もありました。講師陣は全国の第一線で活躍されている方々で、まさにオールスター。毎日、刺激的な学びの時間で、あっという間の2週間でした。

今回の演習課題地は埼玉県草加市でした。草加市のまちづくりと言えばリノベーションまちづくり事業が有名ですが、今回はその対象エリアではなく、市北東部の市街化調整区域「柿木・青柳エリア」において、地域主導で持続可能な都市経営の実現に向け、官民連携のまちづくりとして行うべき施策を市に提案するものでした。

2週間という期間があるからこそ、インプットだけではなく、アウトプットを経験できることがこの研修のいい点の1つでもあったと感じました。

また寮生活と言うこともあり、講義時間以外は他の受講生と外に出かけ飲食をとまにしたり、談話室で夜まで話したり、そういった時間も、様々な場所や立場から参加しているからこそ有意義な時間でした。

この費用でこの質の研修を受けられる機会もありないと思うので、県内市町村の皆さんもぜひ都市計画協会の助成の活用を検討し、参加してみてください。



同じ班の仲間と！

まち'sクリの独り言



年度末を迎え、無事に本号を発刊できたことに、心から感謝ですクリ。執筆者の皆様、ご協力に深く感謝ですクリ。読者の皆様、いつもご愛読していただき、本当にありがとうございますクリ。
来年度も、皆様の期待に応えられるよう努めていくクリ。引き続き、「おっ!!まっちい～」をよろしく願いますクリ～。



県立敷島公園 春まつり

Withキッチンカーフェス[スイーツカーニバルvol.2]

春の公園に遊びに来ませんか！キッチンカー12台が集合し、スイーツなメニューをご提供。園内では、浜田プリトニーさんによる似顔絵ブースの他、年齢性別なく楽しんでいただけるイベントを開催します。

■3月23日(日)10:00~17:00

■県立敷島公園管理事務所内とその周辺

陸上競技場入口前の噴水広場

【お問い合わせ先】

県立敷島公園管理事務所

担当：船津

メール：funatsu-ys@oriental-gunma.com



(1)第15回第一三共なかさと公園桜まつり (2)ちよコス ~Chiyoda Cosplay Collection~

千代田町初のコスプレイベント&桜まつり同時開催！飲食・物販も充実！桜と菜の花に囲まれた春のひと時を楽しみませんか？

■3月29日(土)10:00~16:00

■(1)第一三共なかさと公園

(2)第一三共なかさと公園、
赤岩山光恩寺、利根川河川敷、
コスメ・ニスト千代田町プラザ

【お問い合わせ先】

総合政策課まちづくり戦略室

TEL 0276-86-7007



岩井親水公園 水仙畑と桜並木

約30万本のラッパ水仙と1kmにも及ぶ桜並木が続いています。花の開花時期にはテント販売やキッチンカーの出店なども予定されています。

■4月上旬頃

■東吾妻町岩井・植栗地内

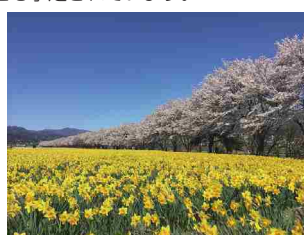
岩井親水公園

【お問い合わせ先】

東吾妻町いせん祭り実行委員会事務局

(町まちづくり推進課内)

TEL 0279-68-2111



令和7年度富岡製糸場 観桜会

春の世界遺産・富岡製糸場で桜を楽しみませんか。様々なイベントや出展を予定しておりますので、ぜひご来場ください。

※富岡市民・未就学児・障害者手帳をお持ちの方と介護者(1名)以外は、富岡製糸場の見学科がかかります。

■4月5日(土)~4月6日(日)

4月5日(土)9:30~16:00

4月6日(日)9:30~15:00

■富岡製糸場西置蔵所多目的ホール及び前庭

【お問い合わせ先】

富岡製糸場観桜会実行委員会

TEL 090-8000-6581



おしりせ

みどり市景観講演会

みどり市・群馬県都市計画協会の共催で、O+Architecture合同会社代表の鈴木美央氏による講演を行います。※参加には、事前の申込みが必要です。

■3月14日(金)14:00~15:30

■みどり市役所大間々庁舎3階大会議室

(みどり市大間々町大間々1511番地)

【お問い合わせ先】

みどり市都市計画課

TEL 0277-76-1903



〈景観講演会HP 2次元コード〉

大間々官民共創デザインシンポジウム

市民と行政が一体となって進むための指針となる「大間々官民共創デザイン」が完成したのでお披露目します。※参加には、事前の申込みが必要です。

■3月22日(土)14:00~16:30(開場13:30)

■みどり市役所大間々庁舎3階大会議室

(みどり市大間々町大間々1511番地)

【お問い合わせ先】

みどり市都市計画課

TEL 0277-76-1903



(申込み2次元コード[Logoフォーム])

おらがまちプロジェクト事業推進イベント ~道の駅 あがつま峡でデビタン試食会とハイキング~

■電動バス遊覧とデビタン無料試食会(定員80名)

■吾妻峡ハイキング 午前の部10:00/午後の部13:30~15:00

(定員各10名)

■岩カードパネル展

■3月30日(日)10:00~16:00

■道の駅 あがつま峡

【お問い合わせ先】

東吾妻町役場

企画課

TEL 0279-68-2111



群馬の森クラフトフェア

全国から様々なジャンルのクラフトマンが集まります。木々に囲まれた森で作品に込めた思い・ストーリーに触れてみてください。

■4月19日(土)、20日(日)

9:00~16:00

■アイ・ディー・エー群馬の森

【お問い合わせ先】

群馬の森クラフトフェア委員会

TEL 080-5423-0883

(実行委員会：大野)



第61回老神温泉赤城神社例祭「大蛇まつり」

12年に1度巳年に限り、108.22m巨大大蛇みこしの特別渡御を実施します。この機会にぜひ老神温泉にお越しください。

■5月9日(金)、10日(土)

9日10:00~ 神事、15:30~ 108.22m大蛇みこし特別渡御、

18:30~ 若衆みこし渡御

10日10:00~ 神事、

18:30~ 若衆みこし渡御

※天候等により変更になる場合あり

■沼田市利根町老神地内

【お問い合わせ先】

老神温泉観光協会・大蛇まつり実行委員会

TEL 0278-56-3013



総合建設コンサルタント

株式会社 アイ・ディー・エー

I.D.A

コンストラクションマネジメント/インフラメンテナンス/都市計画・まちづくり/防災・減災事業/指定管理事業など、官民連携に関わる広範囲な事業展開

企業理念(STEP)



官民連携事業でお困りの際は、当社までお気軽にご相談ください。

群馬県高崎市倉賀野町4221番地13
TEL 027-384-6600
FAX 027-384-6601
URL:https://www.ida-web.jp



有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】群馬県県土整備部都市計画課企画推進係

TEL 027-226-3661 URL https://www.pref.gunma.jp/page/11493.html

